

第3章 都市づくりの課題

都市概況や、市民アンケート、ワークショップでの市民の皆様のご意見をもとに、項目ごとに課題の整理を行いました。

①土地利用に関する課題

・ 中心市街地の活性化

<現況・問題点等>

- 国道3号を中心とした向田地区から川内駅にかけての商業地域においては、用途混在^{※1}や低密な空間利用状況が見られ、中心市街地としての魅力が不足している状況にあります。
- アンケート・WSの市民意向においても、商店街の活性化、商店街近くへの駐車場の確保等、中心市街地における商業機能の充実が求められています。

<課題>

- 計画的な土地利用更新の誘導、高次都市機能^{※2}の集積の誘導、駐車場の適正配置の誘導、空き地、空き店舗等の有効活用を図りつつ、利便性の向上とにぎわいづくりによる魅力向上が必要となっています。

・ 沿道商業業務施設の適切な立地誘導

<現況・問題点等>

- 国道3号及びその他の主要幹線道路沿線には、沿道型の商業業務施設が集積しています。

<課題>

- 各幹線道路沿道の沿道型商業サービス地^{※3}においては、周辺の良い住宅地との調和を図りつつ、適切な立地誘導を推進していく必要があります。

・ 地域の中心を担う市街地の機能更新と活力維持

<現況・問題点等>

- 樋脇、入来、東郷の中心地は、身近な店舗や事業所、公共施設等の施設が立地し、市町村合併後においても、地域住民の日常生活を支える拠点となっています。
- 利便性の高い中心地に集住することが求められています。(WS)
- 温泉を活かした観光地となっている樋脇の市比野地区や入来の副田地区は、かつてのにぎわいを失いつつあります。
- 樋脇の市比野地区、入来の副田地区の温泉資源、施設の有効活用が求められています。(WS)

<課題>

- 日常生活を支える機能の維持とともに一定の機能集積を誘導し、地域の人々が歩いて暮らせる生活利便性の高い複合的な土地利用を図る必要があります。
- 地域住民の生活や観光客の両者にとって魅力を感じさせる機能の充実と空間形成への取組みが必要です。

※WS：ワークショップ^{※4}での市民意向

※1 (126 ページ)、※2 (117 ページ)、※3 (114 ページ)、※4 (127 ページ)

・ 中心市街地における利便性の高い住宅地の形成

<現況・問題点等>

- 川内駅周辺や向田地区の中心市街地においては、他地区に比べ中高層の建物が集積していますが、未利用地も多く見られます。

<課題>

- 利便施設が集積し、高密な土地利用を図るべき中心市街地においては、市民の価値観や生活様式の多様化に対応した都市型住宅地^{※5}の形成を図ることが必要です。

・ ゆとりある良好な住宅地の形成

<現況・問題点等>

- 既成市街地^{※6}内の住宅地に加え、土地区画整理事業による新たな住宅地が整備されています。

<課題>

- 中心市街地の周辺の既成市街地や土地区画整理事業等で基盤整備された新市街地^{※7}については、住み続けられるゆとりある良好な住環境の維持・形成を図ることが必要です。

・ 既存の住宅地における住環境の改善

<現況・問題点等>

- 用途地域では平佐地区、御陵下地区、宮内地区、用途白地地域では、田崎町、宮崎町、高江町、東郷町斧渕の一部において、木造住宅が多く、かつ、幅員 4m未満の道路が多いという問題が目立ちます。
- アンケートの結果、住宅地において、空き家問題、生活道路の未整備、地震・火災への対応等の関心が高くなっています。
- 基盤未整備地区^{※8}の道路が狭く、住環境の向上が求められています。(WS)

<課題>

- 空き家の管理または活用、生活道路が狭い市街地での防災力の向上、建物の耐震化や老朽化への対応など、既存の住宅地における安全・安心につながる住環境の改善が必要です。

※5 (122 ページ)、※6 (115 ページ)、※7 (120 ページ)、※8 (115 ページ)

・ 既存工業地の有効活用

<現況・問題点等>

- 宮内地区、高城地区、港地区、各地区内において、工業用地が形成され、本市の産業構造を支える役割を担っています。
- 港地区の工業団地は、重要港湾※9 川内港に近いという立地条件に恵まれており、今後も工業団地として、更なる活用が求められています。(WS)

- 入来地区では、工場閉鎖に伴い大規模な工場跡地が残されています。
- 入来地区では、大規模工場跡地の有効活用が求められています。(WS)

<課題>

- 各工業地については、周辺住宅地との調和を図りつつ、良好な工業環境の維持・形成を進めていく必要があります。

- 工業地として位置づけている工場跡地の今後の利活用を検討していく必要があります。

・ 川内港やインターチェンジ等の機能を活かした計画的な土地利用

<現況・問題点等>

- 川内港や南九州西回り自動車道などの大型プロジェクトが進行しています。
- 薩摩川内都インターチェンジや薩摩川内高江インターチェンジ、薩摩川内水引インターチェンジ周辺の活用が求められています。(WS)

<課題>

- 整備の動向等を見据え、広域交通網の特性を活かした効果的で計画的な土地利用のあり方を検討する必要があります。

・ 無秩序な開発の抑制による低密な市街地の分散防止

<現況・問題点等>

- 用途地域の縁辺部や用途白地地域の幹線道路沿道では、小規模な宅地開発が多く見られます。
- 小規模な開発が多く、住環境が良くない住宅地が見られます。(WS)

<課題>

- 田園地域等において営農環境の維持と低密な市街地の分散防止のためには、無秩序な開発の抑制と計画的な市街地形成を誘導していく必要があります。

・ 良好な緑地や水辺、歴史的資産の保全と活用

<現況・問題点等>

- 用途白地地域には、山林、農地が多数存在するほか、本市を象徴する川内川が市の中心部を東西に流れています。
- 川内川は自然が豊かで誇りある自然の資源であり、本市の魅力の一つとなっています。(WS)
- 市街地周辺の田園景観、丸山自然公園、向山自然公園、八幡河川公園、湯の滝公園等は、本市の魅力あるスポットとなっています。(WS)

<課題>

- 本市は魅力ある景観を構成する山並みや田畑、川内川などの水辺空間といった自然的資源、武家屋敷群や城跡など価値の高い歴史的資産が存在しており、それらの積極的な保全と活用を図る必要があります。

・優良農用地及び農村集落の維持・保全

<現況・問題点等>

- 未利用地及び耕作放棄地において、太陽光発電等の再生可能エネルギー施設の立地が見られます。
- アンケートの結果、耕作放棄地の解消（市民農園化や景観作物等の栽培への利用等）、補助や助成制度の充実による農地の積極的な保全に対する要望が多くなっています。
- 農地の維持・保全・活用が求められています。（WS）
- ゆとりある農業集落地としての維持が求められています。（WS）

<課題>

- 優良農用地については、積極的に保全し営農環境の維持を努めるとともに、美しい田園景観と共生する農村集落の生活環境を維持・保全していくため、無秩序な市街化を防止する必要があります。

②市街地整備に関する課題

・市街地開発における効果的な対応策の検討

<現況・問題点等>

- 中心市街地では、店舗数の減少、空地化や駐車場の点在など、市街地全体としての空洞化^{※10}の傾向が見られます。
- 向田地区の商店街の空洞化、駐車場不足を解消し、商業拠点としての活性化が求められています。（WS）

<課題>

- 中心市街地の有効な土地利用や全体的なにぎわいの再生等、活性化に向けた取組みが必要です。

・土地区画整理事業完了地区における適切な建築誘導

<現況・問題点等>

- 中郷地区、第二中郷地区、川内駅周辺地区においては、土地区画整理事業による基盤整備が完了し、新しい市街地が形成されつつあります。

<課題>

- 良好な市街地形成を誘導し、その環境を保全するためには、建物用途や規模、景観への配慮や地区のルール等について考えていく必要があります。

・土地区画整理事業の計画的な事業推進

<現況・問題点等>

- 天辰第一地区、温泉場地区においては、土地区画整理事業が実施され、現在施行中となっています。

<課題>

- 各事業区域における良好な住環境を形成するためには、計画的な土地利用とともに、美しいまち並みの誘導を図ることも考えていく必要があります。

※10 (116 ページ)

・ 土地区画整理事業による整備の検討

＜現況・問題点等＞

○九州新幹線の全線開業や南九州西回り自動車道等の高速交通網の整備により、日常的な生活行動の範囲の拡大が考えられます。

＜課題＞

○通勤圏の拡大に伴い、本市への定住促進、定住人口の増加を図るため、土地区画整理事業等による市街地整備を推進し、計画的な宅地供給を検討していく必要があります。

・ 市街地開発における効果的な対応策の検討

＜現況・問題点等＞

○既成市街地では、狭あい道路^{※11}が多く緊急車両の進入が困難な地域や身近な公園が不足する地域等が見られます。

＜課題＞

○土地利用更新の促進、地区内幹線道路等の整備や狭あい道路の拡幅整備、身近な公園の整備に向け、市街地開発等も含めた地域の実情にあった改善策の検討が必要です。

・ 川内川川内市街部改修^{※12}と合わせた市街地の形成

＜現況・問題点等＞

○洪水が頻発する川内川流域の治水安全度向上を図るため、川内市街部の河川改修が計画されており一部実施しています。

＜課題＞

○川内川の川内市街部改修による河川整備と土地区画整理事業等による市街地の基盤整備を合わせ、効率的な市街地形成を目指すとともに、河川空間を活かした魅力ある空間形成の検討が必要です。

③都市施設（道路・交通）に関する課題

・ 「2環状8放射道路網^{※13}」の構築促進による円滑な交通体系^{※14}の実現

＜現況・問題点等＞

○市の中心部を東西に流れる川内川、南北を縦断する鉄道など、地域を分断する地理的な条件から、一定の路線への負荷が大きく市街地内の円滑な移動を支える交通網が不足しています。

○外環状道路の整備実現が求められています。(WS)

○長期的な視点による道路づくり、計画の実現が求められています。(WS)

＜課題＞

○地理的分断の解消による市街地内の円滑な交通網の実現に向け、「2環状8放射道路網」の構築による円滑な移動を支える道路ネットワークの形成を促進する必要があります。

※11 (115 ページ)、※12 (120 ページ)、※13 (124 ページ)、※14 (117 ページ)

・地域公共交通ネットワークの強化

<現況・問題点等>

- 九州新幹線の全線開業に伴い、川内駅周辺においては駅勢圏^{※15}の拡大が見込まれ、川内駅利用者が増加しています。
- 肥薩おれんじ鉄道駅及びバスとの連携強化が求められています。(WS)
- 乗り合いタクシーの整備が求められています。(WS)

<課題>

- 川内駅周辺では、交通サービス及び駅の利便性の向上につながる交通結節機能^{※16}の強化によるアクセス性の向上を図る必要があります。
- 各地域の移動手段としての地域公共交通ネットワークを強化する必要があります。

・広域的な交流を促進する各拠点間のアクセス強化

<現況・問題点等>

- 九州新幹線の全線開業や南九州西回り自動車道の整備等により、鹿児島市などとの広域的な都市間の移動が可能となります。
- 幹線道路（県道山崎川内線、主要地方道川内郡山線、県道吉川川内線等）の早急な拡幅や整備が求められています。(WS)
- 川内港ターミナル^{※17}を拠点とした地域振興や交流への活用が求められています。(WS)
- インターチェンジへのアクセス道路を整備し避難道路としても位置づけることが求められています。(WS)

<課題>

- 都市間交流の活性化のためには、交通の円滑化を図るとともに、広域的な交通の玄関口と川内の中心市街地や各地域の中心部等をネットワーク化するなど、交通アクセスの強化を図る必要があります。

・安全・安心な生活道路の改善・整備

<現況・問題点等>

- 用途地域では平佐地区、御陵下地区、宮内地区、用途白地地域では、田崎町、宮崎町、高江町、東郷町斧渕の一部において、木造住宅が多く、かつ、幅員4m未満の道路が多いという問題が際立っています。
- 川内駅東、国分寺町、宮内町は人口密度が高い地区でありながら、幅員4m未満の道路が多いという問題があります。
- アンケートの結果、生活道路の幅員や通りやすさ、歩道等の歩きやすさに関する不満度が高い傾向が見られます。
- 安全な歩行空間の整備が求められています。(WS)

<課題>

- 身近な道路の安全性の維持・向上のために、カーブミラーや街路灯等の交通安全施設の充実、幅の狭い生活道路の拡幅、地域内の主要な道路の整備や歩道の確保等、生活道路の改善及び維持が必要です。

※15 (114 ページ)、※16 (117 ページ)、※17 (120 ページ)

・商業地における駐車場や駐輪場の整備

<現況・問題点等>

- アンケートの結果、中心市街地の活性化に関連し、商店街付近の大型駐車場等の利便性が求められています。
- 中心市街地における駐車場不足が問題視されています。(WS)

<課題>

- 買い物客の利便性や市街地の回遊性の向上のために、アーケード街等の商業地における駐車場や駐輪場のあり方について検討が必要です。

・道路等の長寿命化

<現況・問題点等>

- 道路等については高度経済成長期に整備したものが大半であり、今後、維持・管理費が増大することが予想されます。

<課題>

- 維持・管理費の削減と予算の平準化を目的とした各施設の長寿命化修繕計画に基づき、より効果的・経済的な維持・管理を行う必要があります。

④都市施設（公園・緑地）に関する課題

・身近な公園・緑地の整備による公園不足地区の解消

<現況・問題点等>

- 用途地域の特に平佐地区、国分寺地区等においては、人口密度が高いにも関わらず、身近な公園が整備されていない状況にあります。
- 用途白地地域においても、隈之城地区や永利地区、入来町副田地区など、ある程度の人口密度があるにも関わらず、身近な公園が整備されていない地区が見られます。
- アンケートの結果、今後の公園に対する取組みとして、「身近な公園や広場の整備」に対する要望が最も多くなっています。
- 隈之城・永利・宮崎地区において大きな公園施設がないとされています。(WS)

<課題>

- 市民が身近に憩い集える住区基幹公園^{※18}や都市基幹公園^{※19}の施設の充実、公園不足地区の解消を図るとともに、都市公園^{※20}の補完につながる緑地や児童遊園等の施設整備と連携した取組みが必要です。

※18 (119 ページ)、※19 (122 ページ)、※20 (123 ページ)

・魅力的な水辺空間等の整備・活用

＜現況・問題点等＞

- 本市のシンボルでもある川内川をはじめとする河川の水辺空間は、市民生活に潤いを与える貴重なオープンスペースですが、河川敷等の水辺空間に集う市民が少なくなっています。
- 川内川河川敷の有効活用及び高城川、銀杏木川の整備が求められています。(WS)

- 隈之城川は、河川脇の竹が茂っているため、舗装等による安全性・快適性の向上及び良好な河川空間としての整備が求められています。(WS)

＜課題＞

- 市街地内では、河川が持つ特性を活かし、河川空間をレクリエーション活動等に活用し、市街地における快適性の向上を図ることが必要です。

- 郊外や田園地域では、水辺空間が美しい風景の骨格を形成していることを踏まえ、河川環境の保全・整備を図ることが必要です。

・災害時の避難場所や地域の防災活動の拠点となる公園・緑地の確保

＜現況・問題点等＞

- 地震や洪水などの自然災害に対応した都市づくりの視点が求められています。
- アンケートの結果、防災の取組みとして、「避難場所となる公園等の充実」に対する要望が最も多くなっています。

＜課題＞

- 公園や緑地は、災害時の避難場所や地域防災活動の拠点を担う施設であり、適切な配置や整備のあり方を検討していく必要があります。

・自然的・歴史的資産を活用した公園・緑地の維持・活用

＜現況・問題点等＞

- 唐浜海岸の白砂青松、寺山、日笠山、向山といった大小の山々等、多くの自然に恵まれています。
- 薩摩国分寺跡、清色城跡、入来麓地区に残る武家屋敷群など、その周囲の豊かな緑地も含めて魅力ある歴史的価値の高い歴史・文化遺産が残っています。
- 川内川宮里公園、清水ヶ岡公園、八幡河川公園、湯之滝公園、丸山自然公園などが、魅力ある公園としてあげられています。(WS)
- 丸山自然公園のスポーツ・レクリエーション機能の充実が求められています。(WS)
- 寺山いこいの広場の駐車場などの施設充実が求められています。(WS)

＜課題＞

- 本市の貴重な自然的・歴史的資産については、その自然環境や景観を維持しつつ、市内外からの来訪者の憩いの場、体験・学習の空間として活用していく必要があります。

・公園施設の適正な維持・管理と市民参画参加の推進

＜現況・問題点等＞

- 身近な公園を快適に利用するため、適切な維持・管理が求められます。

＜課題＞

- 施設の維持・管理は指定管理者制度^{※21}による管理や市民・自治会等による自主管理などにより、適切に行われているものの、施設等の老朽化に対応した計画的な修繕や更新の必要があります。

⑤都市施設（その他）に関する課題

・地域の実情に応じた排水施設の整備促進

＜現況・問題点等＞

- 公共下水道の計画区域のうち、未整備の地域が半分以上残っています。

＜課題＞

- 公共下水道未整備の地域では、単独浄化槽や汲み取り式便所が多く、生活雑排水が未処理となっているため、公共下水道の整備促進が必要です。

- 公共下水道以外の污水处理施設として、農業集落排水施設^{※22}やコミュニティ・プラント^{※23}等が整備されていますが、市全体の污水处理人口普及率は県平均と比較して低い状況にあります。

- 公共下水道等の集合処理以外の区域では、小型合併処理浄化槽^{※24}の普及促進が必要です。

・その他都市施設の長寿命化

＜現況・問題点等＞

- 川内汚泥再生処理センター、川内クリーンセンター、川内葬斎場などは長期的に利用する施設であり、老朽化への対策が求められます。

＜課題＞

- 長期的な視点に立ち、各施設の長寿命化計画^{※25}の策定と、見直しに合わせた適切な維持・管理の方針が必要です。

※21 (119 ページ)、※22 (125 ページ)、※23 (118 ページ)、※24 (115 ページ)、※25 (122 ページ)

⑥景観に関する課題

・河川景観の保全・活用

<現況・問題点等>

- 県立自然公園※26に指定されている川内川を始めとした河川は、多様な生態系を育む自然環境であり、本市の美しい風景の重要な資源でもあります。
- 川内川は、風光明媚かつ誇りある自然の資源であり、川内川の活用が求められています。(WS)
- 川内川は、眺めが良く、また、鮎など多く捕れ、河川敷が散歩コースに良いなどの魅力があります。(WS)
- 樋渡川や田海川は水がきれいです。(WS)
- 美しい水の風景の活用が求められています。(WS)

<課題>

- 河川そのものの環境の保全とともに、美しい風景を構成する資源としての景観のあり方を考える必要があります。
- 市民が景観を楽しむためには、良好な水辺景観を活用した魅力ある空間づくりを考えていくことも必要です。

・緑地景観の保全・活用

<現況・問題点等>

- 神亀山や寺山、丸山などは、市街地の背景となる景観を形成しています。
- 寺山は、川内川とその景観を活用し、寺山いこいの広場の整備充実が求められています。(WS)
- 丸山は、落石が危険で登山ができない状況にあります。(WS)

<課題>

- 山地・丘陵地の自然環境の保全と、地域のシンボルを担う緑地としての景観の両面から、森林の維持・保全に努めることが必要です。

・歴史的景観の保全・活用

<現況・問題点等>

- 清色城跡や入来麓地区の武家屋敷群など、本市には多くの遺跡や史跡が点在しています。
- 入来麓伝統的建造物群保存地区への注目度が増加(活性化)しており、継続的な観光客の確保が求められています。また、城山の崩壊防止が求められています。(WS)
- 大宮神社は神舞と君が代の発祥の地として魅力があります。(WS)
- 歴史・景観資産の整備・案内が不十分という意見があります。(WS)

<課題>

- 歴史的景観は一度失うと二度と元には戻らない、本市の歴史を今に伝える貴重な資産であり、特徴ある景観であることから、後世に伝えていくためには、適切な保全・活用を図る必要があります。

⑦防災に関する課題

・河川流域における洪水対策や平地部等での浸水対策

<現況・問題点等>

- 川内川や樋脇川をはじめとする多くの河川は、生態系を育み、潤いのある空間形成に不可欠な貴重な本市の資源となっていますが、一方では、集中豪雨による河川の氾濫などの浸水被害に幾度も見舞われています。
- 近年の局地的な豪雨や台風による水害に対し、安心して暮らせる都市づくりの視点が不可欠です。
- アンケートにおいて、「風水害・土砂災害への対策」の取組みを重要視する割合が高くなっています。
- 川内川は洪水への不安が常にあるとの声があがっています。(WS)
- 高城川、隈之城川、樋脇川の防災が求められています。(WS)
- アンケートにおいても、塔之原や斧淵では、風水害やがけ崩れ対策の充実が求められています。

<課題>

- 河川流域での洪水対策や、水防活動^{※27}の強化を目的とした整備、市街地における内水被害への対策を迅速に進めていく必要があります。
- 都市全体の保水力を維持するためには、農地の持つ貯水・遊水機能^{※28}を踏まえ、田園地域における無秩序な開発を抑制する必要があります。

・災害時の避難経路や避難場所の安全性の確保

<現況・問題点等>

- 地盤の低い地区や道路が狭い住宅地等、災害に脆弱な市街地も見られます。
- 川内川を渡る橋が必要です。(WS)
- 上平の防災設備、避難設備が求められています。(WS)
- 隈之城駅周辺は水害時に避難できる場所がありません。(WS)
- 隈之城小付近の堤防整備が求められています。(WS)
- 入来麓から久木宇都への旧道は、がけ崩れの危険があります。(WS)

<課題>

- 災害に対する危険性の高い地域では、避難路や避難場所の安全性の確保、救助等の緊急車両の進入や、物資の輸送等を支える緊急輸送道路の沿道の耐震改修の促進など、大規模災害に備えた対応が必要です。

※27 (120 ページ)、※28 (126 ページ)